風間道太郎（かざまみちたろう）評論家、詩人、小説家。明治三十四年六月六日東京生れ（一九〇一）。第一高等學校を經て、昭和二年東京帝國大學法學部卒。一高時代の友人に羽仁五郎、尾崎秀實等がゐた。終戰後尾崎の獄中書簡集『愛情はふる星のごとく』（昭和二十一年九月十日世界評論社）を編輯、ベストセラーとなつた。會社員等の傍ら小説などを執筆、戰中大政翼贊會文化部副部長を、辭して農業に從事。戰後は雜誌の編輯、志摩書房の創立、高校教師等に携はる。筆名志摩耿介。著書『家出をしないノラ―新女性ノート』（昭和二十二年九月十日正旗社）、『ある反逆―尾崎秀実の生涯』（昭和三十四年十月三十一日至誠堂）、詩集『二十世紀の変貌』（昭和三十八年三月十五日分刊）、『暗い夜の記念―戰中日誌』（昭和五十六年一月十日未来社）等。